

問13. 農業への取り組みについて

・地元農産物の生産振興と地元消費の推進 ・耕作しやすい農地づくり(土地改良事業)
 ・猿・猪等による被害対策] などのことです。

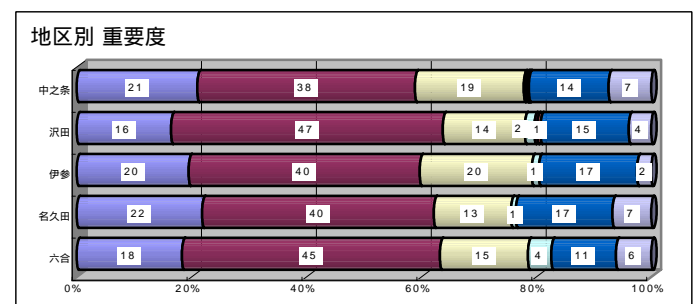
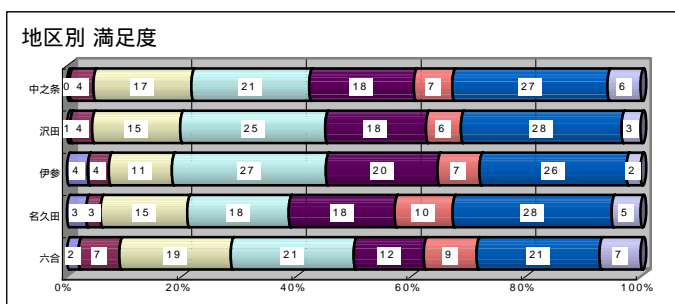
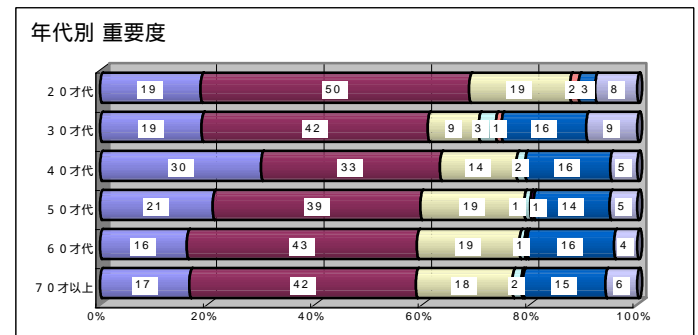
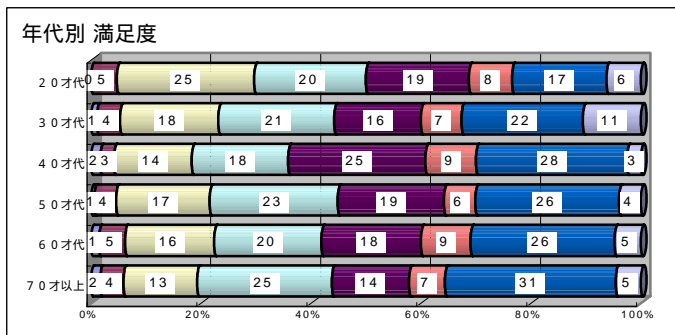
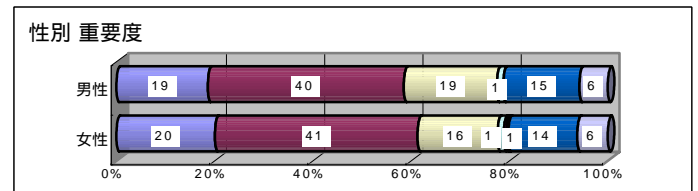
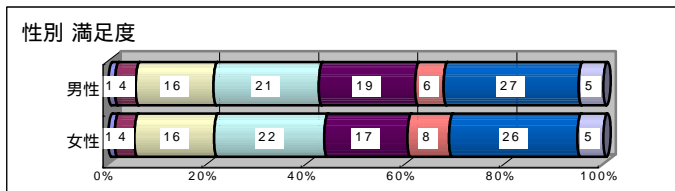
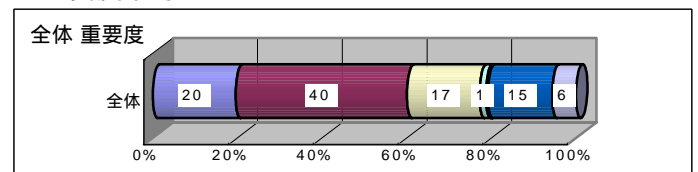
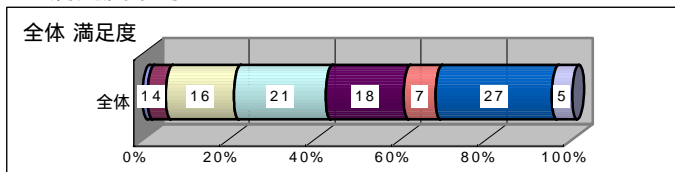
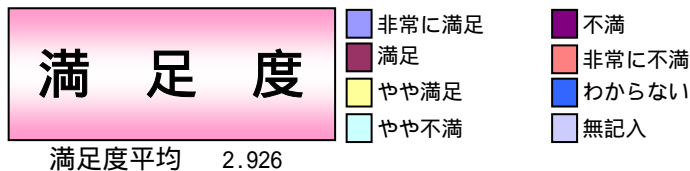
全体的には77%の人が「やや重要」～「非常に重要」と思っている。そして「非常に満足」～「やや満足」と感じている人は21%ととても少ない。「わからない」と答える割合が高くなっている。

- ・性別による傾向は特に見られない。
- ・年代別では、20代に重要と思う人の割合が高くなっている。各年代とも不満を感じている人の割合が高い。
- ・地域別では、六合地区に満足を感じる人の割合が高く(27%)なっている。
- ・重点を置くべき項目は「猿・猪等の獣被害対策」(51.7%)と「耕作放棄地対策」(32.9%)と答える割合が高くなっている。

前回調査(H20)との比較

満足度 平均3.002 2.929 順位31/32 31/32 重要度 平均4.838 4.970 順位15/32 12/32

20代で重要と思う人の割合が前回61%から88%と大幅に増えた。伊参地区で重要度が下がり(-7%)、他地区では上がった(中之条地区+7%、沢田地区+13%、名久田地区+6%)。



この施策を推進するのにあたり、重点を置くべきと思うことの割合。

(%)

推進項目	全体	性別			年代別							地区別					
		男	女	無記入	20年代	30年代	40年代	50年代	60年代	70歳以上	無記入	中之条	沢田	伊参	名久田	六合	無記入
米の戸別所得補償	3.6	3.1	3.8	4.7	6.3	2.1	7.5	2.3	3.8	2.6	4.5	3.0	3.8	3.7	5.9	1.0	5.9
後継者対策	28.9	31.8	27.7	23.5	37.5	23.2	29.2	32.4	24.8	30.7	20.5	28.4	29.1	24.4	31.9	32.7	26.7
耕作放棄地対策	32.9	33.3	32.3	35.3	32.8	36.8	35.0	34.1	35.7	28.8	31.8	35.8	30.8	30.5	30.3	30.6	32.7
猿・猪等の被害対策	51.7	49.6	53.3	51.8	54.7	51.6	50.8	54.0	52.4	49.3	56.8	52.7	47.8	45.1	53.8	58.2	52.5
特産物の開発	20.6	19.7	20.3	27.1	20.3	22.1	17.5	15.9	21.0	22.5	29.5	20.1	23.1	22.0	14.3	19.4	25.7
農道・水路の整備	6.9	6.6	6.9	8.2	3.1	4.2	9.2	5.1	7.1	9.2	2.3	8.1	6.6	7.3	5.0	6.1	5.0

その他の重点を置くべき項目として記入いただいたものは、次ページ

その他の重点項目

道の駅で農産物直売など地産品の販売宣伝活動

空き地の除草対策 地主へ依頼してほしい。地主ができない場合はシルバー人材センターの活用ができれば。

生産物の販路の確保

地産地消（学校給食）

食料自給率がこれ以下になると国の存亡にかかわることと承知されたい

農家でないのでよくわからない

電牧などの助成金。お金の無い人にはそれでも高い。町で負担してもらいたい。

農業の株式会社化

道の駅は交通量の多いバイパスに設けるべき

猿や猪などの野生動物との共存

近くの農家は皆70～80才の高齢者、今後の農業を危惧しています。

地産地消の推進

秋の黄金色の稲を見て、高齢化とともに米作等、人手不足はすぐそこまで来ています。前途多難とおもいます。